

## ■授業記録を読む「説明文」■

### 2007年度 第6学年 国語科

#### 1 学習指導案 ー第6学年 国語科学習指導案ー

2007年12月5日(水) 第4校時

男子8名、女子14名 計22名

指導者 教諭 草尾佳秀

#### 1 単元名 わたし発、ピース・メッセージ

教材名 平和のとりでを築く 自分の考えを発信しよう インターネットと学習

#### 2 目標

- (1) 筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。【関心・意欲・態度】
- (2) 文章の構成や表現に注意して筆者の考えを読み取り、それに対する自分の考えをまとめることができる。【読むこと】
- (3) 自分の考えが相手に明確に伝わるように、必要な材料を選び、整理して全体の組み立てを考えて書くことができる。【書くこと】

#### 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語事項
○筆者の訴えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」について関心をもって読んだり、話し合ったり、書いたりしようとしている。	○自分の考えを明確に表現するために、材料を選び直したり、効果的な文章の組み立てを考えたりしている。(イウ)	○筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかを明確にしながら読んでいく。(エ)	○文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考える。(オ)

#### 3 指導について

- 本単元は、「平和のとりでを築く」と「自分の考えを発信しよう」「インターネットと学習」から構成されている。「平和のとりでを築く」を読み取るとともに、「平和」というテーマにかかわる多様な材料を集め、自分なりの

考えを持ち、発信していく学習をさせたい。さまざまな情報を集め、それに学ぶだけでなく、それをもとに自分なりの考えを深め、その考えを外部に発信することで表現能力を高めることもねらいとする。したがって、本単元は、「発信」に重点を置いた情報活用単元の総仕上げに位置づく。

- 本学級の児童は、物語文の読みに比べて説明文の読みが苦手だと言われてきた。そこで、「生き物はつながりの中に」においては、段落ごとに要点を一文でまとめる指導をていねいに行い、また、5月からは家庭学習として読解力プリントを継続してきた。あわせて、算数の文章問題を線図に表し、立式する学習を毎日繰り返してきた。その結果、徐々に論理的な文章の読みの力が育ってきている。

情報を集め、発信していく学習は、国語科だけではなく、社会科や総合的な学習の時間の活動で何度か経験してきた。しかし、自分が必要とする情報を的確に取り出せない子や、集めた情報を丸写ししてしまう子が何人もいる。情報をもとに自分なりの考えを持つこと、自分の考えが相手に伝わるように書くことが、本単元を学習する際の大きな課題である。

- 「自分の考えを持ち、それを発信する」というねらいを達成するためには、まず、筆者の主張をしっかりと受け止めなくてはならない。そのために、次のような手だてをとっていきたい。
  - ①題名から読みの課題を持たせる。
  - ②語り手を意識させる。
  - ③文章構成や、文末表現の違いから事実と意見を読み分け、要旨をとらえさせる。

(研究主題「確かな読みの力」の第1段階)

さらに、筆者の考えについて自分なりの考えを持ったり、自分の考えを発信したりするために、次のような点に留意したい。

- ①発信するために読むという視点をもたせることで、書き手の立場に立った文章の読みをさせたい。「読み手を引きつける話題提示」「主張したい事柄の根拠」「主張や思い」という3つの構成ごとに要約することで要旨をとらえさせ、自分の考えとその筋道を要旨と同じようにまとめ、発信する学習につなぐ。
- ②総合的な学習の時間や社会科とも関連させ、平和に対して問題意識が持てるような環境作りに努める。
- ③自分の考えを持つ、意見文を書くという活動を支援するため、論理力を高められるようなワークシートを提供する。

(研究主題「確かな読みの力」の第2段階、第3段階)

#### 4 指導計画(全14時間)

次	時	主な学習活動	評価規準	評価方法
一	1	○単元名について考え、発信する相手を意識して、伝えたい内容をもつ。 ○「平和」を中心語とした「言葉マップ」を書く。	○「平和」について考えたり、書いたりしようとしている。 <b>【関心・意欲・態度】</b>	発言 観察 ワークシート
	2	○題名から問題意識をもち、学習の見通しをもつ。 ○新出漢字、難語句、形式段落を押さえる。	○題名から疑問を見つけている。 <b>【読む】</b> ○読みの課題意識をもって学習しようとしている。 <b>【関心・意欲・態度】</b>	ノート 発言 観察
二	3	○文章を3つに分け、それぞれの役割をとらえる。 ○第1段落の話題提示から読みの課題をとらえる。	○文章構成をとらえている。 <b>【読む】</b>	ワークシート 発言 観察
	4	○第1・12・13段落の要点をまとめる。	○第1・12・13段落の要点をまとめている。 <b>【読む】</b>	ワークシート 発言、 観察
	5	○キーワードにより、第2～11段落を二つの内容に分ける。 ○第2～8段落の要点をまとめる。	○第2～11段落を2つの内容に分けてとらえている。 <b>【読む】</b> ○第2～11段落の要点をまとめている。 <b>【読む】</b>	ワークシート 発言 観察
	6	○第9～11段落の要点をまとめる。		
	7	○第12・13段落の文章から読み取ったことをまとめる。 ○「平和のとりで」＝「原爆ドーム」であるか考える。	○まとめの段落に着目し、叙述を丁寧に読み取りながら、根拠を明らかにして、筆者の伝えたいことについて書きまとめている。 <b>【読む】</b>	ワークシート 発言
	8	○筆者の思いをまとめ、自分の考えを書く。	○筆者の思いをまとめ、それについて自分なりの考えを書いている。 <b>【読む】</b>	ワークシート 発言
	三	9	○発信したい内容を見つけ、要旨をまとめる。	○自分の考えの中心(要旨)を1文で明確に書いている。 <b>【書く】</b>
10		○主張の根拠となる情報を収集・整理する。	○自分の要旨に説得力を持たせるために必要な材料を集めている。 <b>【書く】</b>	観察
11		○自分の主張を要旨としてまとめ直し、文章の構成を考える。	○集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の意見が伝わるよう	ワークシート 観察

			に構成を考えている。【書く】	
	12 13	○要旨をもとに、自分の考えを書きまとめる。 ○書きまとめたものを推敲する。 ○「平和」に対する自分の考えを発信する。	○具体的事例と意見、反対意見とそれに対する反論などを、読み手に分かるように書き分けている。  【書く】	作文
四	14	○この単元での学習を振り返る。	○自分の課題に沿って追究してきた学習の仕方や発言した自分の考えなどに対して、達成感・満足感を感じたり、学習した意味を見いだしたりしている。  【関心・意欲・態度】	観察 発言

## 5 本時案

(1) 目標 ○筆者の思いを要旨にまとめ、それに対する自分の考えをもつことができる。

### (2) 展開

学習活動	教師の指導と支援	評価
1 これまでの学習を振り返り、4つのまとまり相互の関係を考え、筆者の伝えたいことを考える。	・これまでの学習のまとめや文章構成図を掲示して、取り組みやすくしておく。	
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">筆者の思いを要旨にまとめ、それに対する自分の考えをもとう。</div>		
2 筆者の思いを要旨にまとめる。 (1) 要旨を1文でまとめる。  (2) まとめた要旨を発表する。 (3) 主語を「私たちは」に変えて、筆者の主張を表す文章に書き直す。	・前時までのワークシートを参考にし、「原爆ドームは」から書き始めればよいことを確認する。  ・「原爆ドーム」「平和のとりで(またはそれを言い換えた言葉)」というキーワードを押さえる。 ・「私たちは、～なければならない」という主述の関係を意識して書かせるようにする。	・要旨を1文でまとめている。 (ワークシート)
3 筆者の思いに対する自分の	・次のポイントを示して自分の考えをま	・筆者の思いに対

考えを書く。



とめさせる。

○筆者に賛成できるところはどこか。  
それはなぜか。

○ちょっと違うと思うところはどこか。  
それはなぜか。

○「心の中の平和のとりでを築く」ために自分ができることは何か。

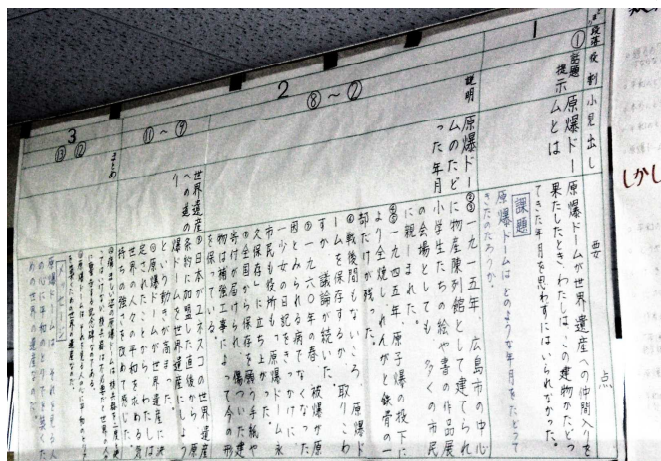
し、自分の考えをもち、表現している。

(ワークシート・観察)

## 2 授業の実際

課題の1つめについては、「要旨を1文でまとめる」ことも、「『私たちは』の文に書き換える」ことも、全員がねらいを達成できた。

課題の2つめ、「筆者の思いに対する自分の考えを書く」については、短時間であったが集中



して自分の意見をまとめていた。評価規準「筆者の思いに対し、自分の考えをもち、表現している」を満たしたのが21人(欠席1)中20人、内11人が「十分満足できる(根拠となる具体例を示しながら表現している)」内容であった。なお、「概ね満足できる」9名には、根拠を示しながらも論理力不足のために「十分満足できる」にならなかったものが4名あった。あとの1名は、「大切なことが書いてあるから」筆者に賛成だというもので、課題を十分に捉えられていなかったようである。

私が筆者の意見に賛成できるところは、「原爆ドームを見て、平和を願う強い気持ちを築かなければならない」というところだ。私も、修学旅行で広島に行った時、少しはそういうふうにしたし、その時まわりにいた修学旅行生や外国の人たちも少しもそう思っしてほしいと思っただけだ。筆者の意見とちよつとちがうというわけではないけれど、私は、原爆ドームだけが平和のとりでを築くためのものではないと思う。たとえば、沖縄の「ひめゆりの塔」など、他にもたくさんそういうものがあると思う。世界遺産じゃなくても、見る人にそう思わせるところ。「心の中に平和のとりでを築く」ために私ができると思うことは、まず、後生に戦争のことを教えることだと思う。後生にどんどん教えていくことで、たくさんの方が平和について深く考えてくれると思うからです。

## 3 まとめ

### (1) 研究授業について

本単元は、「発信」に重点を置いた情報活用単元の総仕上げに位置づくものである。本時は単元前半の最終時で、「発信」するために必要となる「情報の取り出し」「解釈」や「熟考・評価」、「論述」の力が総合的に問われる時間であった。研究テーマと深く関わっている PISA 型「読解力」の現状が丸ごと見える1時間になった。

要旨をまとめる「情報の取り出し」・「解釈」という点では、全員が概ね満足できる力をつけていると言ってよいと思う。ただし、それに対する自分の考えをまとめる「熟考・評価」になると、1部の児童には今回の学習過程よりもさらにていねいな手だてが必要なことが明らかになった。また、論理的な文章力を育てていく課題も見えてきた。

#### 伝えよう ひめゆりの涙を

「ひめゆり学徒隊」を知っていますか？「ひめゆり学徒隊」とは、日本で唯一地上戦が行われた沖縄で、主に看護活動をやった16才から17才ぐらいの女の子達のことです。ひめゆり学徒隊は、沖縄戦でどのような日々を過ごし、今も世界の人々に伝え続けられているのでしょうか。

ひめゆり学徒隊が過ごした「沖縄戦」は、すごく悲しくて、悲惨なものでした。戦いは、3ヶ月にもおよび、約9万4千人の一般住民をふくむ、19万人もの戦死者を出しました。軍の兵隊さんがいなくなれば、一般の大人や、学生も戦いに参加させられるようになっていました。そのころの沖縄は、まさに地獄そのものだったそうです。

ひめゆり学徒隊は、「沖縄師範学校女子部」と、「沖縄県立第一高等女学校」の教師と生徒で構成されていました。沖縄県立第一高等女学校には、沖縄で唯一のプールがあり、師範学校女子部には、プールはありませんでしたが、両校ともに生徒は笑顔あふれる学校生活をおくっていたそうです。しかし、両方とも米軍の爆撃をうけて、全てなくなってしまいました。

ひめゆり学徒隊は、沖縄戦で必死に戦いました。いつでも自殺できるように、いつも手榴弾という爆弾を持ち歩いていました。看護活動をするだけでも、アメリカ軍の兵士に見つかって、殺されてしまうかもしれないのです。それでも、「これもお国のため」と思い、必死で戦い続けたそうです。

沖縄には、「ひめゆりの塔」という塔があります。これは、ひめゆり学徒隊に入っていて死亡した少女達をまつた塔で、おとずれる観光客がたえないそうです。ひめゆりの塔は、「もうこんなことをくりかえさないで」とうったえかける人達の思いがこもっています。

沖縄には、もう1つ、ひめゆり学徒隊のことで観光客がたえない所があります。「ひめゆり資料館」です。ひめゆり学徒隊についてたくさんの資料がおいてあります。外国人の観光客もたくさんやってきます。ここにも、ひめゆりの塔と同じ思いがつまっていると思います。

ひめゆり資料館には、体験談を話してくれる人がいます。ひめゆり学徒隊として過ごした日々のことなどを、くわしく教えてくれるそうです。涙をこぼしながらも、後世に伝えていくためにがんばっておられるそうです。しかし、いくら話しても、日本にも、世界にもひめゆり学徒隊について知らない若い人が多く、困っているそうです。

ひめゆり学徒隊の人達は、沖縄戦でとても苦しい日々を過ごし、今も世界の人々にあの時の苦しみなどを、伝えようと努力されています。でも、実際のいまの若い人達はひめゆり学徒隊について知りません。私もあまりよく知りませんでした。それで、私達はひめゆり学徒隊や戦争のことについてもっと知り、世界を平和にしようという思いを高めなければならないと思います。そして、これ以上同じことがくりかえされないといいと思います。

単元後半は、前半の学習の応用で、自分のテーマに沿って情報を収集し、それ

らを活用しながら自分の考えを発信するというものである。私たちが6年間で育てたいと考えている「読解力」の現状という点から分析しておきたい。

「情報収集」は、図書室の資料を使ったりアンケート調査を実施した児童もあったが、大半がインターネットに依った。検索や選択は概ねできているが、それに要する時間の個人差が大きい。量的には十分な資料を集めることができた。論旨に沿った「情報の取り出し」も概ねできている。さらに、「論述」段階で、ほとんどの児童が資料を丸写しせず、必要な数字やキーワードを文章の中で巧みに使っていたことは評価できる。総合的に「十分満足できる」ものが12あった。その一方で、テキストの解釈を誤っているものや、丸写し的な文章もわずかにあった。論理力を構成する諸要素をどう育てるか、大きな課題である。

#### 地球の未来は

私たちは今、とても便利な生活を送っています。でも、この暮らしは地球にとってやさしいものなのでしょうか。人間がこのままの生活を続けると地球はどうなってしまうのでしょうか。

世界の人口について話をしましょう。今の世界の人口は、約66億5千万人です。1年間に6千万人が亡くなり、1億4千万人が産まれるといわれています。日本では、少子化が問題になっていますが、世界の人口は増えているのです。

最新の未来の人口予想では、2050年の世界人口が85億人になるといわれています。人口の増加がさまざまな分野に影響を与えており、年に4万種生物が絶滅しています。

人口の多い国は中国、インド、アメリカで、中国とインドで世界の人口の約4割を占めています。逆に、人口の少ない国はツバルで、今はたったの9千人しかいません。これは、地球温暖化と関係があるのです。

地球温暖化の主な原因といわれている二酸化炭素は、人口増に合わせて急増していて、2004年度の排出量は約265億トンでした。二酸化炭素の削減目標というのがありますが、アメリカやオーストラリアは同意せず、中国やインドなどは発展途上国として、削減義務がなく排出量を増やしています。つまり、先進国による極わずかな温暖化対策でしかなく、あまり効果はないのです。

温暖化は、地球にとってとても困ることですが、私たち人間には温暖化によるメリットがあります。魚がたくさん取れたり、雪の被害が減ったり、風邪や脳卒中、脳梗塞などが減ります。

ですがその一方で、氷河が溶けてベネチアやモルジブなどの海拔の低い場所が水没する可能性が出てきました。すでに、太平洋のツバルは水没が始まり、ニュージーランドへ移住をはじめています。ツバルの人口が少ないのはこのためなのです。

この事からわかるように、地球温暖化は、私たち人間にとってもいいことではないのです。このままの生活を続けると人間の住める土地は全て水に沈んでしまい、いつか人の住める星ではなくなってしまいます。人の生活が自然からの恵を超え、いつか人間も絶滅してしまうでしょう。戦争なんてしている場合ではないのです。

私たち人間は、地球の未来、人間の未来のために、互いに手を取り合い、戦争のない平和な世界をつくらなければならないのです。そして、一人一人が環境問題に関心を持ち、地球にやさしい、自然にやさしい生活をしなくてはならないのです。

## (2) 1年間の取り組みの実際

12月を迎える段階で、読み取ったことをもとに自分の考えを持ち発信できる

力を付けていること。この1年間はすべてそこから逆算した取り組みだった。

「熟考・評価」や「発信」には、「解釈(確かな読みの力)」がいる。それも、優雅に水面を滑るアヒルが実は水中で一生懸命水を掻いているように、当然の力としてあるいは前提としている。しかし、現実は厳しい。

指導者である私の課題は、文学教材に比べて苦手であった説明文の授業改善を徹底して行うことである。具体的には、教科書の編集委員でもある筑波大学附属小学校・国語研究部の先生たちの授業展開を取り寄せ、それを追試しながら学ぶことから始めた。子どもたちの理論形成を育む指導展開のスキルを少し自分のものにできたように思う。

論理的文章に強い子どもにしたい。結果が目に見える具体的イメージとしては、どの子も「説明文のテストで物語文と遜色のない結果が出せること」と「算数の文章問題を読んで正しく立式できること」を目標にした。そして、授業を補う謂わば“アヒルの水掻き”部分として、読解力プリントと文章題プリントを毎日の家庭学習として子どもに課した。

卒業を間近に控えた現在、「発信」の質を云々できる段階まで子どもたちは育ってきている。6年間かけて育てたい「児童像」を、付け焼き刃的に駆け足でたどった側面は否定できない。しかしその中で、「やればできそうだ」という確信を得られた。同時に、そのための課題も見えてきた1年だった。

#### 日本は平和？

あなたは、日本が平和だと思いますか？もう日常となっている犯罪のニュース。犯罪とつながって日本が平和かどうか考えてみましょう。

少し古いですが、平成13年に起こった犯罪の数を見てみましょう。

交通犯罪・・・87万605件

薬物犯罪・・・1万8110件

ハイテク犯罪・・・810件

銃器犯罪・・・215件

放火や殺人等の平成13年に起こった数・・・358万1521件  
と書かれていました。(平成14年版犯罪白書のあらまし)

なんと1年間で358万1521件も犯罪が起こっていることがわかりました。犯罪がこんなにも起こっている日本は本当に平和なんでしょうか。とても平和だとは思えません。私だけの意見を書いてもなんなので、次は、6年生の意見を聞いてみましょう。

■■ 小学校の今の6年生にアンケートをとりました。内容は、「日本は平和か」というものです。「はい」と答えた人は3人、「いいえ」と答えた人は18人でした。はいと答えた人の理由は、日本がほかの国と比べて豊かだからという意見や、テロや戦争がないからというものでした。いいえの人の理由は、人が人を殺すことがあるからとか、ニュースでいつも人が殺されたということを言っているからという意見もありました。

みんなの意見を見て、結構かんがえているなあと思いました。私は、日本が平和だとは思えません。たしかに日本は豊かです。それに戦争もありません。でも、犯罪が起きて限り日本は平和ではないと思います。平和でニュースではいつも良いニュースばかり・・・。そういう日常に変えるためには、私たちは、犯罪をなくさなければならないのです。



## 2008年度 第6学年 国語科

### (1) 学習指導案 — 第6学年 国語科学習指導案 —

2008年6月18日(水) 第4校時  
男子12名、女子14名 計26名  
指導者 教諭 草尾佳秀

1 単元名 文章を読んで、自分の考えをもとう  
教材名 生き物は、つながりの中で

#### 2 目標

- (1) 説明的文章を読み取って筆者の問いかける内容に関心をもち、それに対する自分の考えをもつ。【関心・意欲・態度】
- (2) 文章の構成や表現に注意して、筆者の考えを読み取る。【読むこと】
- (3) 文章を要約し、筆者の考えに対する自分の考えを文章にまとめる。【読むこと】

#### 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語事項
○説明的文章を読み取って筆者の問いかける内容に関心をもち、それに対する自分の考えをもとうとしている。		○文章の構成や表現に注意して、筆者の考えを読み取っている。(イ) ○文章を要約し、筆者の考えに対する自分の考えを文章にまとめている。(エ)	○文章全体のおおまかな構成と、部分の役割を理解している。(オ)

#### 3 指導について

- 本単元は、6年下巻「平和のとりでを築く」と並んで、小学校の説明文学習のまとめの意味をもつ。説明文を読むことによって、未知の世界に触れられる喜びを大切にしたい。同時に、筆者の主張をつかみ、それについての自分の意見も出させる。その意見も「感想」といったレベルに止まらせずに、筆者の主張や叙述の仕方についての吟味あるいは評価まで発展させたい。

児童らは、生まれた時から機械文明の中で育ってきた。機械が限りなく人間に近づき、機械が人間の日常を代行する時、人間はどうすればいいのだろうか。そんな疑問すら感じない世代が育とうとしているのかも知れない。だからこそあえて、最高学年を迎えた今、人間と機械との違いは何か、人間らしい生き方とはどうあるべきかといった問題について考えるきっかけとしたい。

- 本学級の児童は、読書好きの子が多く、休み時間にも本を広げているのをよく見かける。しかし、読書傾向は『はだしのゲン』をはじめとするアニメものや物語文に片寄り、説明文(論理的文章)に触れる機会はほとんどない。昨年度の後半から始めた 99 冊の課題図書には、論理的文章やノンフィクションなども含まれている。5月下旬から、計画的な読書推進の取り組みを進めているところである。

また、事前に行った調査では、情報を正しく取り出すことや、段落と段落の相互関係や文章全体の構成などを踏まえて要約することに、課題が浮かんできている。ていねいな読みの授業を組織することで、子どもたちのスキルアップを図りたい。

- 本単元の読みのねらいは2つある。今回は、子どもたちの実態を踏まえ、筆者の考えを読み取り、文章を要約するところまでに重点を置いて取り組みたい。そして、「要約する」ために次のステップで指導し、各過程で必要なスキルの定着をめざしたい。

①段落ごとに要点を1文でまとめる。

- ・各段落の中で1番中心となる1文を選び、傍線を引く。
- ・選んだ1文をもとに大事な言葉を選んでつなげ、要点を1文にまとめる。
  - ・文末は常体にする。
  - ・指示語部分は文中の言葉を補う。

②各段落の要点をもとに、意味段落を考えて、小見出しをつける。

- ・キーワード(大事な言葉)を見つける。
- ・小見出しは体言止めで端的に表現する。

③文章構成図をかき、段落相互の関係をつかむ。

- ・小見出しを問題提起(話題提示)、問題の追究、結論(まとめ)、筆者の主張のまとまりに分け、赤で囲む。
- ・課題追求がいくつかのまとまりに分かれる時は、青で囲む。
- ・段落番号と小見出しを工夫して書き加え、段落構成図をかく。

④客観的事実と筆者の考えを文章中の大事な言葉を使って短くまとめる。

※本時案参照

#### 4 指導計画(全7時間)

次	時	主な学習活動	評価規準	評価方法
一	1	○全文を読んでおおまかな内容をつかむ。	○興味をもって文章を読み、疑問や気づきをもとに、初読の感想を書いている。【関心・意欲・態度】	ノート 観察
二	2	○文章のおおまかな構成をとらえる。	○問題提起文を理解し、問題提起文と対応する答えの文を指摘できる。【読む】 ○おおまかに文章全体の構成をとらえている。【読む】	ノート 発言 観察
	3	○段落ごとの要点を押さえる。	○要点のまとめ方を理解し、段落ごとに要点を1文にまとめている。【読む】	ワークシート 発言 観察
	4		○小見出しをつけ、段落ごとのつながりやまとまりをとらえている。【読む】	
	5	○文章構成をとらえる。	○内容のまとまりやつながりを文章構成図にまとめている。【読む】	ノート
	6	○筆者の考えや意図を読み取り、要約文をまとめる。	○生き物の特徴と筆者の考えを落とさずに、文章全体を要約している。【読む】	ノート
三	7	○筆者の考えに対して、自分の考えをまとめて書く。	○筆者の考えに対する自分の考えを文章にまとめている。【読む】	ノート


#### 5 本時案

##### (1) 目標

○筆者の考えや意図を読み取り、要約文をまとめることができる。

##### (2) 展開

学習活動	教師の指導と支援	評価
1 本時の学習課題をつかむ。		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     筆者の考えや意図を読み取り、要約文をまとめよう                 </div>		
2 「要約」について知る。	・教科書P 30「たいせつ」を参考にして、「要約」とはどのようなことであるかをとらえ	

<p>3 文章を要約する。</p> <p>(1)既習内容を生かして文章を要約する。</p> <p>(2)黒板に書かれた要約文をもとに話し合う。</p>	<p>させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生で学習した「要旨」との違いを押しさえる。</li> <li>・筆者の主張、意見を主張する根拠となる事実がどこに述べられているか考えさせる。</li> </ul> <p>・3文以内でまとめさせる。</p> <p>・話し合いで以下の点を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・根拠(事実)には、生き物の特徴である「3つのつながり」を書く。</li> <li>・「大事な言葉」を落とさずにまとめる。</li> <li>・「大事な言葉」は、「生き物」「つながり」「すてき」である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張や根拠となる事実が述べられている段落が見つけられる。</li> </ul> <p>(ノート・発言)</p>
	<p>・以下の点に留意してまとめさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3文以内で</li> <li>・大事な言葉を落とさずに</li> <li>・主述の関係が正しいか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生き物の特徴と筆者の考えを落とさずに、文章全体を要約している。</li> </ul> <p>(ノート)</p>

## (2) 授業の実際

二次の最初の授業風景を、保護者向けに書いた通信から再現したい。この授業が、本時のバックボーンになっている。

授業の冒頭、「問題提起(問い)」の文はどこにあるかと聞きました。子どもたちは、1段落、3段落、8段落にある疑問文を見つけ出し、答えました。それらはすべて問いかけなのですが、私の問いに対する答えではありません。「問題提起文」とは「これから説明する内容の中心を予告する役割を果たす前置き文」であることを確認し、「問題提起文」には「疑問文」と「呼びかけの文」があることを説明しました。そして、やっとのことで、1段落の終わりの部分に解を求め、「ロボットの犬とホンモノの犬のちがいを考えながら、生き物の特徴をさぐってみましょう」とまとめることができました。この1時間で、「問い」に対す

る「答え」の文も見つける予定だったのですが、ちょっとした誤算です。

回り道は時に予想外の成果をもたらしてくれるものです。

誤算の結果、「答え」の文を見つける授業にたっぷり1時間を費やすことになりました。隣席の子とペアで朗読し、相談タイムに突入。13ペアの内10ペアは7段落の「生き物は、外の世界とつながり、一つの個体としてつながり、長い時間の中で過去の生き物たちとつながるというように、さまざまなつながりの中で生きていることが分かりました。」だと主張しました。その中の3ペアは、続きの文「このつながりこそが、生き物の生き物らしいところであり、ロボットとのちがいです。」を含む2文だと主張しました。残りの3ペアは、4段落の「外から取り入れたものが自分の一部になる、そのようなつながり方で外とつながっているのが、生き物の特徴です。」だと主張しました。意見が分かると、授業は俄然おもしろくなります。

なぜそう思うかと聞くと、4段落を選んだ1人が「生き物の特徴です」と書いてあるからと答えました。正解です。少数派の彼は思わずにっこりです。7段落組の反撃や如何に。

「それやったら、5段落にも『変化・成長しながら、一つの個体として時間をこえてつながっている、これも生き物の特徴です。』って書いたるで。」混乱に拍車をかけるヤツがどこの学級にもいるものです。「あっ、ほんまやな、それはどう思う？」と先ほどの彼に振ってみると、「一応見つけてたけど、先生が答えは一つと言ったから…」と困ってしまいました。しばし沈黙。

「7段落にそれ書いたる。」と7段落組の1人。「どこ？」と聞くと、「外の世界とつながり」が4段落、「一つの個体としてつながり」が5段落のことだと言うのです。「と言うことは、7段落には4と5の中身が入ってるということやな。」(本当は6段落の中身もだけど、今はいい。)と言うと、7段落組は勝者の顔になりました。

揺さぶりは続く。7段落組の2文を選んだペアに、「2文のうちのどちらが主か？」と問うと、3ペアとも後の文と答えました。前の文は指示語「この」を言い換えるために使うのだと答えてくれました。脱帽です。学びの深さはもはや核心部に迫っています。まあ、ここまでくると、ポカンと口が開いたままの子もいますが…。

この後、授業は各段落の読みを経て本時に至る。2つの日記から、子どもにとってこの授業がどうであったのかを振り返りたい。

「私は国語が苦手です。…周りが気になって、仕方がなかったのです。でも、途中から授業に集中してきました。先生が、『全体の文を要約して書け。』と言われた時、『ええっ。』と思ったけど、『まあ、いけるかも。』と思ったら、先生が、『三文以内。』と言ったのでパニックでした。何回もノートを見続けていると、段落七は問題追究のまとめなので、七と八の段落を二文でつなぎました。そしていろいろ発表して、最後に分かりやすく三文にと宿題が出た時、私は、最初に書いた文がこれでいいと思いました。けどもう一度考えようと思いました。」

「今日の授業のテーマは、『要約文を作ろう』だった。なかなかむずかしいテーマだ。さっそくノートに書こうと思ったが、手が動かなかった。『生き物はつながりの中に』の話には、

大事な言葉がたくさんありすぎて、どこを書けばよいのか分からなかったからだ。しばらく考えていると、ずいぶん前の授業でFさんが、『二、三、四、五、六の段落のことが、全て七の段落にふくまれている。』と言ったのを思い出した。そして、七と八の段落を見ながら、ノートに要約文を書き始めた。時間がきた。私は、『外の世界とつながり、…』の部分を書き、『さまざまな』の言葉に置きかえて書いていた。でも、本当は省いてはいけなかったのだ。それを知って、『なんで省いたらあかんの？さまざまな、と同じ意味やんか。』と思った。でも、だんだんと理由が分かった。家で正しい要約文を書いてみると、長くはなったが、初めて読む人でも分かりやすい文になった。今日の国語は、とても楽しかった。」(MK)

次時、三次の授業で、筆者へ手紙を書くことを通して自分の考えをまとめた。筆者の主張に学ぶと同時に、論の展開や文章の構成に疑問を持った子や、「個々はちがうけど生き物として同じだ」という筆者の「哲学」に近付いた子など、読みの主体者が育ちつつあることが分かる。

「あなたは、この文章を書いて、生き方を強調しているところがたくさんありました。ぼくは、『今日もあなたであり、明日もあなたであり続ける、たった一つのかげがえのない存在』という文章を読んで、一人一人のことを大切に思っていると思います。だから、何度も考えて読むと、命を大切にしなければならないと覚えてきました。そして、『生き物として生きている』という文章にも、心の中ですごいことだと思いました。なぜかと言うと、あなたも最後の文章に書いているように、生きていることがすてきに思えてくるからです。『生き物はつながりの中に』は、深い意味があることをぼくは分かりました。」

「中村さんは、『生き物はつながりの中に』の中で、どうしてイヌとイヌ型ロボットでたとえているのですか。別に、ヒトとヒト型ロボットでもいいんじゃないのですか。私は、何でもいいと思うんですがどうですか。それから、四段落の『電池は電池、ロボットはロボットです』のところ、私もそうだと思います。電池がロボットの一部分になるわけがないからです。それと、『外の世界とつながり、一つの個体としてつながり、長い時間の中で過去の生き物たちとつながる』のところも、確かにつながっています。でも、生き物のつながりは、三つしかないのでしょうか。もっとあると思います。」

「ぼくは、中村さんの『生き物はつながりの中に』の問いかけについてこう考えます。『自分を大切にすることと、他を大切にすることは同じ』という文で考えたことは、他を大切にしないと自分一人では生きていけないと考えています。…ぼくは、中村さんに論の展開に対する質問をします。四の段落はすごく詳しく書いていますが、六の段落はなぜ簡単に書いているのですか。なぜ八段落にあんな問いかけの文を書いたのですか。」

「中村さんが書いた、『自分を大切にすることと他を大切にすることは同じだ』という文は、その前の『あなたは、今日もあなたであり、明日もあなたであり続

ける、たった一つの存在です』という文とちょっとちがうと思います。中村さんはどう思いますか。…」

### (3) まとめ

#### ① 研究授業について

授業については、意図がはっきりしている、子どもが集中しているという評価とともに、机の上に辞書を置いておくとよいというアドバイスをいただいた。

授業者としては、子どもが要約文を板書した後(学習活動3(2)の前)、説明をし過ぎて授業のテンポが悪くなった点を反省している。教師のしゃべりすぎは、不安の裏返しに過ぎない。

二次の最初の授業で、子どもたちの読みは相当深かった。したがって、本時の学習活動については、大半の子どもが難なくクリアすると予想していた。ところが、MKさんが書いているように、部分を詳しく読むことになって「大事な言葉」が膨れ上がってしまったのである。つまり、マクロから入った学習が、ミクロの学習を経ることでマクロの視点を忘れさせていったということになる。本時の前に文章構成図も書いているのだが、子どもの視点を戻すには至っていなかったようだ。予想と実際とのズレは、こうして生じてしまったと考えている。

#### ② 1年間の取り組みの実際

小学校卒業時に子どもに付けておきたい大凡の力を提示しようとした昨年度の実践から見えてきた課題は、次のようなものであった。

○論理的文章を読むスキルをしっかりと定着させること。

○情報リテラシーの段階的指導を確立すること。

- ・図書利用のスキル
- ・インターネット検索のスキル
- ・資料選択、評価のスキル
- ・資料活用のスキル
- ・プレゼンテーションのスキル etc.

○論理力を構成する諸要素を各教科の学習に位置づけること。

※論理力というのは、説明する力、説得する力、構成する力、論証する力、比較する力、分類する力、分析する力、評価する力、選択する力、推論する力、構想する力等の総称である。説明する力、説得する力、構成する力、論証する力は、国語科を中心に身につけさせるものであり、それ以外の力は他教科の学習に位置づけて指導することになる。

※「スキル」という言葉を多用しているのは、その力そのものを目的とするのではなく、ロールプレイゲームを有利に進めるツールを手に入れるように、より高次の学習のためのツールとして獲得させた力と位置づけるからである。

また、昨年度の全国学力調査における読解力の分析から、「情報を正しく取り

出す、段落と段落の相互関係や文章全体の構成などを踏まえて要約する」といった具体的な指導改善の課題が浮かんできた。

国語科においては、論理的文章を読むための技能を明らかにして、子どもたちに定着させることを指導の中心に据えた。そして、2学期教材では、大半の子どもが一人読みできるようになった。また、要約についても、マクロ的視点を失わずに文章全体をまとめられるようになった。

### ③ 成果と課題

【成果】○論理的文章を読むスキルを明確にしてある程度定着させることができたこと。

○情報リテラシーの指導が他教科においてもすすんだこと。

【課題】○全体の読みと部分の読みを自在にできる力を付けること。

○論理的な文章表現力を系統的に指導すること。

○情報リテラシーの中で「資料選択、評価のスキル」「プレゼンテーションのスキル」を重点的に指導すること。

○論理力を構成する諸要素を各教科の学習に位置づけること。

## 2009年度 第5学年 国語科

### (1) 学習指導案 ——第5学年 国語科学習指導案——

2009年6月18日(木) 第4校時

男子14名、女子4名 計18名

指導者 教諭 草尾佳秀

1 単元名 要旨をとらえよう  
教材名 サクラソウとトラマルハナバチ

#### 2 目標

(1) 筆者の意見を主体的にとらえ、それに対する自分の考えをもつ。

【関心・意欲・態度】

(2) 文章構成を把握し、内容を的確に読み取り、文章全体の要旨をとらえる。

【読むこと】

(3) 文章の要旨から読み取れる筆者の考えを踏まえ、それに対する自分の考



えをもつ。  
むこと】

【読

《単元の評価規準》

関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語事項
○筆者の意見を主体的にとらえ、それに対する自分の考えを明確にしようとしている。		○文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえている。(イ) ○文章構成や文末表現などに着目して筆者の意見を押さえ、それに対する自分の意見を持っている。(エ)	○問題提起、問題の解明、まとめという文章構成を理解している。(オ)

3 指導について

- この時期の児童は、知的探求心が格段に発達してくる。なぞがあれば、それを解く意欲をもったり、解かれる過程に興味をもったりし、解けた爽快感もこれまで以上に感じるようになる。「サクラソウとトラマルハナバチ」は、サクラソウの絶滅の危機という事象の裏に隠されているなぞを、明快に解き明かしている。この文章を読むことによって、事象の裏に隠されているなぞを解明していくことのおもしろさを実感させたい。

本教材は、「問題提示」→「問題解明Ⅰ」→「問題解明Ⅱ」→「まとめ」という構成になっている。「問題解明Ⅰ」に基づいて「問題解明Ⅱ」が展開され、それぞれには小さな問いと小さなまとめが示されている。そして、「まとめ」の中に、「問題解明」のまとめに加えて「筆者の考え」が明示されている。そういったことにも着目させ、読む力をつけることを通して、論理的な思考力を育てるのに適した文章だと言える。

筆者は、サクラソウとトラマルハナバチの共生・共進化を題材に、絶滅の危機にあるサクラソウを救うには、環境全体を大きな視野で見、守っていくことが必要だと述べている。この学習を通して、物事を関係性においてとらえるという見方・考え方に気づかせたい。

- 本学級の児童は、4年時の学級崩壊・学習崩壊により、それまでの学習習慣が崩れ、学ぶことの楽しさや意欲を失ったまま5年生を迎えた。席に着くこと、教科書を出すことの指導から始まり、「朝モジュール」での音読や百マス計算、漢字復習、さらには総合の時間を使った学力補充により、少しずつ学習に向かう姿勢と学力の回復を図っている。

読みの学習についても、表現に即して文章を読み取る、文章を短くまとめ

る、筆者の考えと具体例を区別する等の力が不十分である。一斉学習と一人学習を交互に行う螺旋型のていねいな読みの授業を組織することで、子どもたちのスキルカアップを図り、同時に学ぶ楽しさを取り戻させたい。

- 本単元の読みの目標は2つある。今回は、子どもたちの実態を踏まえ、筆者の考えを読み取り、要旨をまとめるところまでに重点を置いて取り組みたい。「確かな読みの力をつけるための学習指導」という研究主題に迫るために、次のステップで指導し、各過程で必要なスキルの定着をめざしたい。

①段落ごとに要点を1文でまとめる。

- ・ 文の役割を考え、内容をまとめる。
- ・ 中心文を見つける。
- ・ 中心語句を見つける。
- ・ 文と文の関係から中心となる1文を見つけ、傍線を引く。
- ・ 選んだ1文をもとに大事な言葉を選んでつなげ、要点を1文にまとめる。
- ・ 文末は常体にする。
- ・ 指示語部分は文中の言葉を補う。

②段落相互の関係から、文章構成をとらえる。

- ・ それぞれの段落の要点をもとに文章構成図をかく。

③中心段落の要点をもとに要旨をまとめる。

- ・ 段落相互の力関係を考えて、中心段落を取り出す。
- ・ 指定された字数に注意して、中心語句を使って要旨をまとめる。

#### 4 指導計画(全8時間)

次	時	主な学習活動	評価規準	評価方法
一	1	○教材文を読んで、学習の見通しをもつ。	○説明文に興味をもって読み、初めて知ったことを進んで発表し、これからの学習の見通しをもとうとしている。 <b>【関心・意欲・態度】</b>	ノート 観察
二	2	○文章のおおまかな構成をとらえる。	○問題提示文と、対応するまとめの文を指摘できる。 <b>【読む】</b> ○文章全体を4つに分け、それぞれの内容をとらえている。 <b>【読む】</b>	ワークシート 発言 観察
	3	○段落ごとの要点を押さえる。	○要点のまとめ方を理解し、段落ごとに要点を1文にまとめ	ワークシート


		ている【読む】	発言
4 本 時	○第2～6段落を読んで、1つ目の問題について考える。	○サクラソウの受粉の仕組みと、トラマルハナバチが果たしている役割をとらえている。【読む】	ワークシート 発言
5	○第7～9段落を読んで、2つ目の問題について考える。	○トラマルハナバチがいなくなった秘密を、その1年間の生活からとらえている。【読む】	ワークシート 発言
6	○文章構成図を作り、文章全体をとらえる。	○文章構成図をかき、文章全体つながりをとらえている。【読む】	ノート
7	○第10段落の内容から要旨をまとめる。	○筆者の主張は何かを考え、要旨をまとめている。【読む】	ノート 発言
三	8 ○筆者の主張に対する自分の考えを明らかにする。	○筆者の考えと関連づけて、自分の考えを、なぜそう考えたかという根拠とともに書いたり発言したりしている。【読む】	ワークシート 発言

## 5 本時案

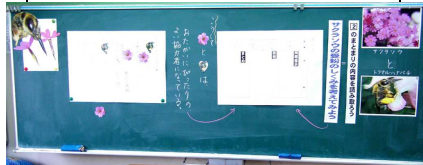
### (1) 目標

○サクラソウの受粉の仕組みと、トラマルハナバチとの関係をとらえることができる。

### (2) 展開

学習活動	教師の指導と支援	評価
1 本時の学習課題をつかむ。		
<div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;">           ② のまとまりの内容を読み取ろう         </div>		
2 ② のまとまりの問題提示の文を探し、内容をとらえる。	・ 4つの大きなまとまりを振り返らせ、何のための問いであるかを考えさせる。	
3 細分化された1つ目の問題について読み取る。		
(1) ② のまとまりを、さ		

<p>らに3つのまとまりに分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「受粉」という言葉を手がかりとして、両者の関係をまとめさせる。</li> <li>・「そのような」「こうして」の指示語が具体的に何を指しているのか、読み取ったことの中から挙げさせるようにする。</li> </ul>	
<p>(2) サクラソウの受粉の仕組み、トラマルハナバチとの関係を整理する。</p>	<p>・「受粉」という言葉を手がかりとして、両者の関係をまとめさせる。</p> <p>・「そのような」「こうして」の指示語が具体的に何を指しているのか、読み取ったことの中から挙げさせるようにする。</p>	
<p>(3) サクラソウとトラマルハナバチとの関係をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以下の点に留意してまとめさせる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大事な言葉を落とさずに</li> <li>・主述の関係に注意して</li> <li>・できれば1文で</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サクラソウの受粉にトラマルハナバチが果たしている役割をとらえている。 (ワーク・発言)</li> <li>・両者の関係を大事な言葉を落とさずに、的確にまとめている。 (ワーク・発言)</li> </ul>



## (2) 授業の実際



一斉学習と一人学習を交互に行う螺旋型授業構造において、本時はスキルを学ぶ一斉学習という位置づけになる。授業では、前半の学習活動に予想以上の時間を要し、3(3)を次時に残すことになってしまった。

学習活動2は、既習学習の復習的側面もあり、容易に見つけることができた。ところが、3(1)で②のまとまりを3つに分け、問題提示に対する答えを書く段階で学習が停滞した。「こうして」という尾括型文章の特徴に着目した子は反応が早かったのだが、「サクラソウ

ウの受粉の仕組みを考えてみよう」の問いに対する答えが「サクラソウとトラマルハナバチはよい協力者になっている」であることに不一致感を持った子の戸惑いが原因のようだ。

学習活動3(2)は、読解が苦手な子に照準を合わせたワークを用意することによって、意味理解を伴いながら要点整理ができたように思う。

次時、活動3(3)のまとめは、基本的には前時のワーク上段を書き写すことで完成できるように仕組んでいた。一例を紹介したい。

「サクラソウの受粉の仕組みを考えてみよう。トラマルハナバチはサクラソウの受粉の仲立ちをしていて、サクラソウも同じ仲間の花に確実に花粉をわたしてもらうためにいくつかの工夫をしている。トラマルハナバチはそのようなサクラソウに合ったくらし方や体のつくりをしていて、おたがいにぴったりのよい協力者となっている。」

### (3) まとめ

#### ① 研究授業について

今回の授業には大きく2つの意味があったと考えている。

1つは、算数科で行っていた班学習の形態を国語科の読みの学習にも採り入れることにより、教科書やノートを出すことさえ困難であった子どもが課題に向き合い、仲間の援助によって積極的に活動に参加できるようになったことである。

もう1つは、一斉学習と一人学習を交互に行う螺旋型授業を組織したことと、それを支えるワークのあり方を追究したことで、読解が苦手だった子どもたちの学習が成立したことである。次の③のまとまりは、本時の活動を生かした一人学習であった。子どもたちは、「トラマルハナバチが生きていくためには、いろいろな植物の花と、使い古しのネズミの巣穴が必要である」や「トラマルハナバチが

生きていくためには、いろいろな植物がとぎれることなく咲き続ける場所と、使い古しの巣穴を残してくれるネズミが必要である」と、自分の言葉でまとめることができた。螺旋型授業は、一定の成果を収めることができたと言ってよいだろう。

しかしながら、如何せん「あるべき5年生像」との隔たりの大きさは否めない。懇切丁寧なワークが、授業の躍動感を喪失させたことも否定できない。授業者としては、子どもたちの実態に根ざした過渡期の実践だったと位置づけている。

## ② 1年間の取り組みの実際

- 「読み・書き・…」の言葉どおり、朝モジュールの時間を中心に音読と書き取りを1年間続けた。その結果、子どもたちの活字に対する抵抗感が小さくなってきた。また、学力診断テストの結果が県平均を上回るなど、「確かな読み」の前提となる力が徐々に回復しつつあると考えられる。
- 読み取ったことをもとに(根拠を明確にして)、自分の考えを表現する活動を大事にした。その延長線上に12月教材の「ニュース作り」がある。子どもたちは、論旨の根拠となる情報(インタビュー、アンケート、ネット検索等)を収集し、まとめることができた。

## ③ 残された課題

- 学習習慣・学習規律の確立。(これは「読みの力」以前の問題だが、依然として学習集団が育っていないことが本学級一番の課題である。)
- 論理的文章を読むスキルをきちんと定着させること。
- 論理的な文章表現力を系統的に指導すること。
- 論理力を構成する諸要素を各教科の学習に位置づけること。

## ■明日の授業を作る■

# 「学びの共同体」を作る

2013.4

前節「論理力を育てる」で、佐藤学さん(学習院大学)の「21世紀型の学校」について紹介した。「学びの共同体」は、「21世紀型の学校」を実現するための学校改革のヴィジョンであり哲学である。

佐藤さんは、学びの共同体の学校のヴィジョンを次のように定義している。  
「学びの共同体の学校は、子どもたちが学び合う学校であり、教師たちも教育の専門家として育ち合う学校であり、さらに保護者や市民も学校の改革に協力し参加して学び育ち合う学校である。」

また、佐藤さんは、学びの共同体の学校改革を3つの哲学によって基礎づけている。公共性の哲学と民主主義の哲学と卓越性の哲学である。

公共性の哲学とは、教室を開くことである。

民主主義の哲学とは、子どもと子ども、子どもと教師、教師と教師の間に「聴き合う関係」を創造することである。

卓越性の哲学とは、どんな条件であっても、丁寧さと細やかさを大切にして、最高の学びを追求することである。

学びの共同体の学校改革は、上記のヴィジョンと哲学に基づき、その実現のために以下の3つの活動システムで構成される。教室における協同的学び、職員室における教師の学びの共同体と同僚性の構築、保護者や市民が改革に参加する学習参加の3つの活動システムである。

以上、佐藤さんの著書『学校を改革する』より要約して紹介した。詳しくは、同書及び佐藤さんの数多い類書を参照していただきたい。

ところで、学びの共同体の学校改革は学校ぐるみでなければ実現しない。ここでは、そのことはひとまず横に置く。私がここで紹介しようとしているのは、学びの共同体の学校改革の一步として一人で取り組める授業改革である。佐藤さんの理論展開からすれば、3つの活動システムの「教室における協同的学び」についてである。今まで述べてきたことは、「協同的学び」の位置づけを知ってもらうための前置きと考えてもらえばいい。

「協同的学びによる授業改革」という項の冒頭、佐藤さんは衝撃的な事実を告げる。曰く、「学びの共同体の学校改革においては、小学校低学年においては全体学習とペア学習による協同的な学び、小学校3年以上、中学校、高校においては男女混合4人グループによる協同的学びを中心に授業を組織している。この授業と学びの様式は、途上国や北朝鮮のような特殊な国を除けば、今日、グローバル・スタンダードとなっている。」

そして、学びの共同体の学校改革が協同的学びを中心に授業を組織している理由として、次の4点を挙げている。

- ① 協同的学びは、学びの本質である。
- ② 一人残らず子どもの学びの権利を実現するためには、協同的学びによって子ども同士が学び合うより他に方法はない。4人以下の小グループの学び合いは、どの形態の授業よりも強制的に学びを促す機能がある。
- ③ 小グループの協同的学びが、学力の低い子どもの学力を回復する機能を発揮することである。
- ④ 協同的学びが、学力の高い子どもにも、より高い学力を保証することである。ただし、〈ジャンプの課題〉への挑戦を含んでいることが条件である。

通常、学びの共同体の学校の協同的学びにおいては、誰もが理解すべき〈共有の課題〉(教科書レベル)と、その理解を基礎として挑戦する〈ジャンプの課題〉(教科書レベル以上)の2つの課題で授業をデザインしている。

〈共有の課題〉においては、個人作業の共同化ともいうべき、小グループの協同的学びによって組織する。個人作業の共同化においては、分からない子どもが「ねえ、ここどうするの?」という問いを発することから学び合いが出發する。佐藤さんの観察では、この学びで最も利益を受けているのは学力の高い子どもだそうだ。

〈ジャンプの課題〉は、クラスの半分から3分の1が達成できるレベルが妥当だという。佐藤さんによれば、この学びで最も恩恵を受けるのは低学力の子どもであり、〈ジャンプの学び〉を組織することで低学力問題の解決に効果を上げた学校がいくつもあるそうだ。

協同的学びを導入するにあたって、「教え合う関係」と「学び合う関係」の違いを整理しておく必要がある。「教え合う関係」は、分かっている子どもが分かっている子どもに一方的に教える関係で、両者の間に互恵的關係はない。それに対して「学び合う関係」は、分からない子どもが「ねえ、ここどうするの?」と質問することから出發する学び合いであり、両者に恩恵をもたらす互恵的關係が成立している。協同的学びがめざしているのは、「学び合う関係」である。

いくつかの技術的問題について触れておきたい。

小グループは、男女混合の4人グループで組織する。5人のグループができる時は、3人グループを3つにするなどして対応する。男女混合の方が探求が活性化される。小グループの組織は、多様な個性や能力の子どもが偶発的に組織されるのが好ましく、クジで決め、適宜編成を変えるのがよい。



1つの授業において、〈共有の学び〉と〈ジャンプの学び〉の両方を組織する。小学校中学年においては、全体の協同的学びと小グループの協同的学びを適宜組み合わせて授業を進める。高学年以上では、〈共有の学び〉と〈ジャンプの学び〉を前半と後半に割り当てるのが基本型である。なお、小グループの活動の間、教師は声を掛けない。歩き回るのも子どもたちの学びの妨げになる。ただし、参加できていない子どもは援助し、学び合いが滞っているグループに対しては最小限の援助を行う。

クラス全体を対象とする授業は、コの字型(ゼミナール形式)の配置で行う。高学年以上では、最初から最後まで小グループの配置のまま、全体の協同的学びと小グループの協同的学びの両方を実施してもよい。

2012年現在、学びの共同体の学校改革に挑戦している小学校は約1500校、中学校は約2000校ある。公開研究会も年間1000回近くに達し、「学びの共同体研究会」のホームページ(<http://www.justymstage.com/home/manabi/>)に実施計画が掲載されている。

私自身は、10年ほど前から佐藤さんの著書を通して「学びの共同体」を知ってはいたが、手つかずの状態でも過ごしてきた。今、教室からの小さな改革を始めたばかりだ。

私は、自分の実践をくぐっていないことは書かないようにしているのだが、今回は例外的に紹介した。授業のユニバーサルデザイン化にも通じるし、時代の要請でもあると感じるからだ。

【補遺】 「学びの共同体」を作る の補足として

## 「学びの共同体」をめざして ～教室革命事始め～

2013.6

### 1 はじめに ～今やらずに、いつやる～

岩波ブックレットから佐藤学さんの『学校を改革する』が発行されたのは、昨年の7月である。

佐藤さんが提唱する「協同的な学び」や「学びの共同体」は、『「学び」から逃走する子どもたち』（2000年）や『学校を創る－茅ヶ崎市立浜之郷小学校の誕生と実践』（2000年）、『学校を変える－浜之郷小学校の五年間』（2004年）で知った。だがそれは、遠い世界の特別な実践だった。

10年ほどの時が流れて、久しぶりに佐藤さんの著書に触れた。

「この授業と学びの様式（注：協同的な学び）は、途上国や北朝鮮のような特殊な国を除けば、今日、グローバル・スタンダードとなっている」。近年は、アジアのいくつかの国が国家の教育システムとして導入し（ヨーロッパは以前からそうであった）、日本でも「2012年現在、学びの共同体の学校改革に挑戦している小学校は約1500校（注：全国の小学校数は約21000校）、中学校は約2000校（注：全国の中学校数は約10000校）ある」という。――なんという衝撃。

私は、間もなく教員生活を終える。学校ぐるみの「学びの共同体」は、一朝一夕にはいかない。だが、教室における「協同的な学び」の取り組みは一人でも可能だ。今やらずに、いつやる。

かくして2013年度を迎えた。

## 2 教室風景が変わる

今年は、児童数7名（男子3名、女子4名）の3年生を担当することになった。

学級開きの日、机を4人と3人のグループになるように並び替えた。子どもたちは、学級開きの日慣例で出席番号順に座っていた。そのまま2つに分けると、偶然にも、男子2女子2と男子1女子2の混合グループができた。4月一杯はその形を通し、5月からは月初めにくじ引きをして同様の男女混合グループを作っている。

少人数学級は、担任の目が行き届きやすいプラス面がある一方、個々の能力差が際立ってしまうマイナス面もある。このクラスには、学習をリードしていける子が2名、個別支援が欠かせない子が2名いる。担任としては上手く編成したいところだが、くじ引きを通すつもりでいる。また、これはやり始めて改めて感じるのだが、この学びにはグループ内の協力が欠かせない。来月からは、くじ引きをした日に構成的グループエンカウンター（SGE）やグループワークトレーニングなどのアクティビティーを実施し、グループの結束を図ろうと考えている。

さて、「50日が勝負」を経過した時点での教室風景をレポートしておこう。

黒板の前に教卓がある。そこに立って授業を始めてみると、どうも勝手が違う。教室のレイアウトを変えることは、授業のあり方を変えることなんだと実感する。最初の変化は、子どもの学びにではなく、教師の教えに表れた。

まず、私の立つ位置が変わった。教卓の前に立つこともあるが、子どもたちの机の近くにいることが多くなった。それに伴って、演説口調が語り口調になり、

声も小さくなった。

つづいて、課題の出し方が変わってきた。具体的に言うと、一問一答式の質問がめっきり減った。これは、すぐれた問いを作る鍛錬の場になっているし、ひいては授業の質の向上に繋がるはずだ。

子どもの変化を「成果」として記せる状況には、まだない。ましてや、従前の授業形態を続けていた場合との比較など不可能だ。だが、小さな変化がないわけではない。

個別の支援が欠かせない2人のうちの1人(以下、**X**)として登場する)は、一斉指導の中で耳から入ってくる情報はほとんど処理できない。もう1人(以下、**Y**)として登場する)は、2年の漢字で読めるものが25%にすぎない。彼らはしばしば課題を投げ出し、学びからドロップアウトしてきた。その2人が、「丸写し」というワザも含めて、ともかくも学びの場に踏みとどまり、学びに参加し続けている。

学びの質という点では、佐藤さんの言う「学び合い」には遠く及ばず、「教え合い」にも届かないレベルである。それでも子どもたちは、この学びのカタチを肯定的に受け入れ、結構楽しんでくれている。

### 3 「ゆうすげ村の小さな旅館」の授業から

#### (1) 「ゆうすげ村…」で何をめざすか

##### ①教育内容として（授業のUD化の視点から）

この単元のねらいは、「物語のあらすじをとらえよう」である。学習指導要領の「目的や必要に応じて、…要約したりすること」が指導事項であり、説明文の要約の仕方と対をなすものとして、物語文のあらすじのまとめ方を習得させることが目標の「論理」になる。子どもたちには、「2年生に『ゆうすげ村…』のお話を紹介しよう」というねらいを提示し、あらすじをまとめる必然性をもたせた。

指導書では、全9時間の学習の流れを、

一次 学習のねらいを確かめ、学習の見通しを持つ …第1時

二次 人物像について考え、物語の「しかけ」を確かめる …第2・3時

三次 時を表す言葉を手がかりに、場面を分ける …第4～7時

四次 だいたいなところを確かめ、あらすじをまとめる …第8・9時

としている。

学習に入るずっと前に、ファンタジーの「しかけ」が明らかになる後半部分をセロテープで封印した。場面を「隠す」という「しかけ」である。授業においては、あらすじをまとめる過程をスモールステップ化し、課題のハードルを下げるように工夫した。すなわち、

二次 人物像について考える …第2時

三次 時を表す言葉を手がかりに場面を分け、場面ごとのあらすじをまとめる

第3時 時を表す言葉を手がかりにして、場面を分ける

第4時 第1・2場面を読み、あらすじをまとめる

※一斉授業、みんなで確かめながらあらすじをまとめる

※1場面1文で「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」

第5時 第3場面を読み、あらすじをまとめる

※以後、グループで確かめながらあらすじをまとめる

第6時 第4・5場面を読み、あらすじをまとめる

第7時 物語の「しかけ」を見つける

第8時 第6・7場面を読み、あらすじをまとめる

四次 だいじなところを確かめ、あらすじをまとめる …第9時

※各場面のあらすじをつなぎ、必要に応じて気持ちを表す文などを書き加える。

## ②「学びの共同体」の視点から

先にも触れたように、現時点でのねらいは、全員が学習に参加することである。指示を視覚化したり、教科書にルビを付けたりとといった個別支援の工夫もしているが、そんなことは学ぶ意欲づけにはならない。劣等感を払拭し、自己効力感を高めるには、学ぶことが楽しいと思える体験を重ねるしかない。その場を「協同的学び」に求めている。学びの質については、今しばらく横に置いておきたい。

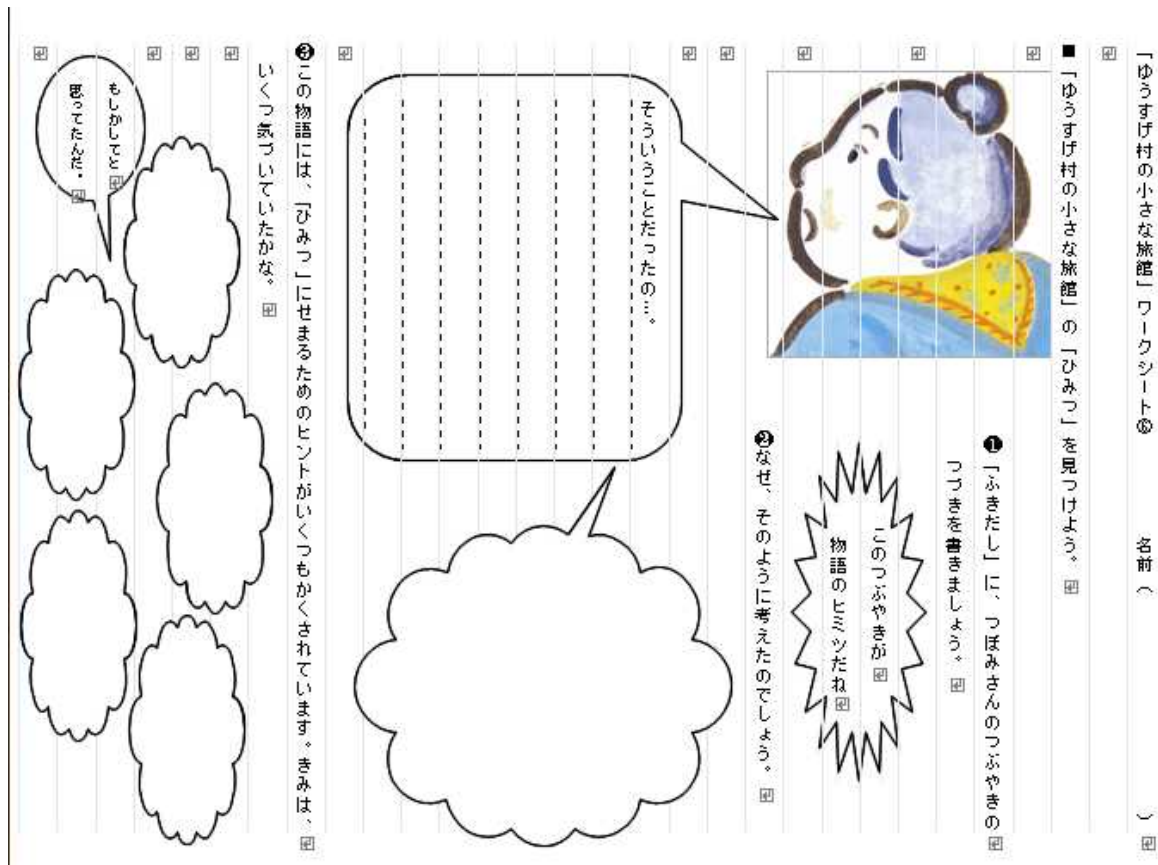
### (2) 6月4日、学校アドバイザー参観授業

6月4日、学校アドバイザーチームの学校訪問があり、3時間目に国語の授業を見ていただいた。困難さが最も顕著に表れる国語の考える学習を見ていただいて、何かしらの示唆を与えてもらえればと思惑からだ。

参観授業は、指導計画の「三次 第7時 物語の『しかけ』を見つける」であった。案の定、苦しい授業になった。しかし、授業後の懇談では、思いの外高い評価をいただいた。その内容を要約すると、

- ・授業者のマクロな発問で、子どもたちはじっくり考えを深めていた。子どもへの「返し」もよかった。
- ・要支援児童は頼りっぱなしという状況もあったが、頼られている子の学びが深まっていた。

という2点に尽きる。老教師へのリップサービス分を割り引いたとしても、「協同的学び」でめざしていることの本質に関わる評価である。気分が悪いわけではない。そんなわけで、この日の授業をスケッチしておこう。



授業の冒頭にワークシートを配り、「物語の『ひみつ』を見つけよう」という課題を示した。

教科書は、主人公のつぼみさんが、山の畑で2匹のウサギがダイコンを抜いているのを目撃し、(そういうことだったの……。)という心内語を発するところで終わっている。厳密に言うと、そこから後のページが隠されている。

【学習活動1】吹き出しに「そういうことだったの…。」の続きを書く。

(1)吹き出しに書く。…一人学習。

ワークシートの吹き出しに、「つぶやき」の続きを書くように指示。しばらくして、早く書けた子には、そう考えた理由を書くように伝えた。

- A (そういうことだったの……。やっぱり、美月さんはウサギで、宇佐見さんもウサギだったのね。)《理由》美月がダイコンをしゅうかくすると言っていたから。
- B (そういうことだったの……。やっぱり美月さんとうさみという男がウサギだったの。)《理由》美月の色がダイコン色だから。ダイコンを持ってきたから。
- C (そういうことだったの……。ダイコンをきれいにぬいているから、もしかして美月さんとうさみさんかもしれないと思ったわ。)《理由》動物がダイコ

ンをきれいにぬくわけがないから。

- D (そういうことだったの……。この畑を知っているのは、美月さんとうさみという男とわたしだけなのに、なぜかしら。わかったわ、このウサギはうさみという男と美月さんね。)《理由》人間はダイコンをぬくのがうまくて、動物はダイコンをぬくことはできないから。

## (2) グループ内で交流

□A と□B は同一グループに属している。□A が真っ先に書き込みを行い、□A のつぶやきに触発されるように□B が書き込んでいった。理由の記述が全く違うことから、□B は自分なりに納得し咀嚼して書いていったことが窺える。この2人の間では意見交流が成立し、□B は□A の考えに傾倒していった。

このグループには、個別支援が必要な□X と□Y の2人がいる。□X は吹き出しに書き込むことはできなかったが、交流の中で、「2ひきのウサギ=美月と宇佐見さん」ということには合意できたようである。一方□Y は、□A のワークシートを写してはいたが、内容を理解できているようにはなかった。

□C と□D はもう1つのグループに属している。□C は学力は高いが、ファンタジーの世界に浸れるタイプの子ではない。その□C に引っ張られる形で、□D の書き込みがなされている。したがって、意見交流が成立せず、考えを深めるには至らなかった。

このグループに属する□Z は、漢字や計算はトップクラスの力を持っているが、考える学習になるとしばしば思考停止状態に陥る。この時間も「分からない」を連発し、最後まで交流に参加できなかった。

## (3) 全体で交流

全体交流では「2ひきのウサギ=美月と宇佐見さん」という結論部分での一致だけを確認し、そう考えた理由を深めることはしなかった。□C と□D の理由は論理的に間違っているが、それも不問にした。

【学習活動2】「ひみつ」何かを確かめる。

教科書の伏せてある部分を開き、その部分を黙読させた。「やったあ」「あたってた」という声上がる。「おお、やったじゃん。」程度の押さえで、ここは終わった。

【学習活動3】作者の「しかけ」を見つける。

(1) 「ひみつ」に迫るヒントを見つけてワークシートに書き出す。

… 一人学習・3分間+グループ内情報交換。

「ヒント」は、物語の各所に6個埋め込まれている、と私はみている。ワークシートには、5つの記述枠を設けておいた。3分間の一人学習とその後の情報交換で、**A**のグループは5個、**C**のグループは4個の「ヒント」を見つけた。予想以上の出来だった。

## (2) 全体で交流

全体交流は、**A**のグループから交互に1つずつ発表させた。グループの発表者は1回ずつ互選で決めた。**X**と**Y**の2人もこれには進んで参加していた。「作業―確認―指名」という手順を踏むことで、自信をもって臨めたようだ。

**A**のグループが5つ目の「ヒント」を発表した時、**C**のグループから「ああ」という感嘆の声が漏れた。学び合うってこういうことなのかなと、振り返って漠然と思う。

## 4 これからの展望

この舟はどこへ向かおうとしているのか。未だ五里霧中の状態ではあるが、向かう先の景色ははっきりしている。その景色とは、ユニバーサルデザイン化された授業の中で学び合う子どもたちの光景だ。授業のUD化という授業内容・授業方法からの改革と、「学びの共同体(協同的学び)」という授業形態からの改革が1つになった時、それは実現する。――というのが青写真なのだが、恐らく霧の中で私は教員生活を終えることになるのだろう。10年後の教室風景を覗いてみたい気もするが…。

# 説明文と文学の授業を作る

## 説明文の教材研究の方法

2012年9月、同僚教員の指導案作成の資料として作成した文章です。前節に掲載している2012年度4年生の指導案は、この方法に則って作成されています。そちらを参照しながら読んでください。

### 【ステップ1】 一人の読者として文章(教材)を読む

一人の読者として、読んで印象に残ったことを書いておくとよい。

- ・ 1番おもしろかったところは？
- ・ 「なるほど」と納得したところは？
- ・ 疑問に思ったことは？
- ・ 納得できなかったところは？

## 【ステップ2】 5つの読みの観点から、教材の特性を導き出す

- ※5つの読みの観点とは
- ①要点
  - ②問いと答え
  - ③説明文特有の表現方法
  - ④三段構成
  - ⑤要旨や意図

※5つの読み方には、それぞれ、下位内容の論理的な読み方がある。

- ①要点…「主語、述語がわかる」「中心文をさがす」「中心文を要約するには述語から短くする」という方法が必要。
- ③表現技法…○接続語…段落相互の関係を考えながら読むことができる。  
○文末表現…事実と意見を区別して読むことができる。  
○指示語

内容的な特徴だけでなく、文章を読み解く方法や論理に着目する。

## 【ステップ3】 指導内容(読み方)を確定する

学習指導要領や指導書を参考にして、言語活動や指導内容を確定する。教科書には、言語活動や指導内容のヒントが書かれているので、それを参考にするとよい。

- ※注 指導事項…学習指導要領に書かれているもの  
指導内容…「教材の特性」「言語活動」「指導事項」「子どもの実態」から導き出した、授業で具体的に教える内容

## 【ステップ4】 問題解決的な展開で、単元の指導計画を立てる

- 第一次 学習の計画を立てる(学習のイメージや見通しを持つ)
- 第二次 共通教材で精読する(論理的な読み方を習得する)
- 第三次 発展読書や表現活動をする(論理的な読み方を活用する)

## 【ステップ5】 問題解決的な展開で、授業の指導計画を立てる

「課題意識を引き出す → 内容のイメージ化 → 論理のイメージ化 → 全員の表現活動」というおおまかな流れで授業を構成する。

参考文献「授業のユニバーサルデザイン vol.4」

「国語授業のユニバーサルデザイン」



# 文学の教材研究の方法

この文章は、2012年10月、4年生の文学教材「ごんぎつね」の授業に際してまとめたものです。

## 文学の授業 4年「ごんぎつね」

### 【ステップ2】 文学の5つの読み方

桂さんは、文学を論理的に読むために5つの読み方を提唱している。

○**作品の設定**をとらえて読む…「いつ(時)」「どこで(場所)」「誰が(中心人物)」「何をした(事件)」をとらえて読むことである。

「ごんぎつね」では、「いつ(秋に、二、三日雨がふり続いて、その雨が上がった時)」「どこで(村の小川の川下で)」「誰が(ごんが)」「何をした(兵十が捕った魚やうなぎにいたずらをした)」となる。

○**視点**をとらえて読む…文学作品のほとんどは、語り手が、登場人物の誰かの目と心から語っている。視点をとらえて読むと、人物の心情や作者の巧妙な工夫を深く味わうことができる。

「ごんぎつね」は、ごんの視点で書かれている。ただし、六場面では兵十の視点に変わる。(視点の転換)

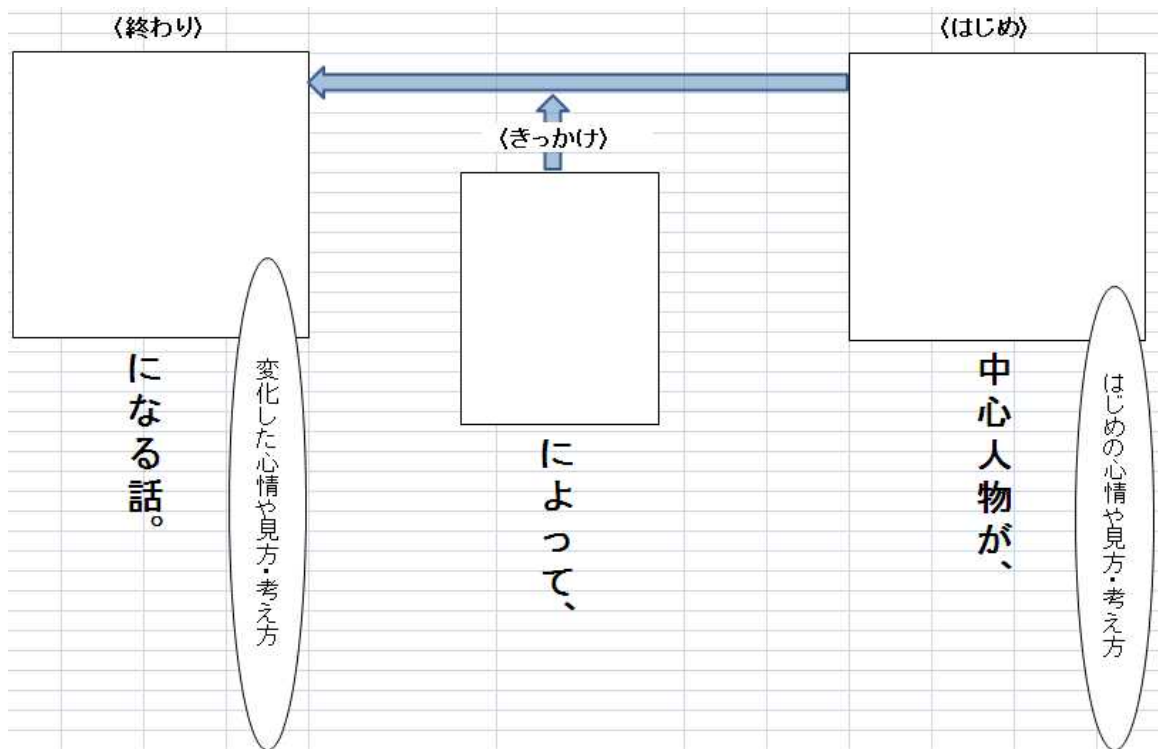
○**表現技法**をとらえて読む…擬声語、擬態語、色彩語、会話文、心内語、行動描写、情景描写、倒置法、擬人法、類比、対比、リズム、額縁構造、文体、呼称表現などの表現技法をとらえて読むことで、その作品世界を深く味わうことができる。

「ごんぎつね」の「空はからっと晴れていて、もずの声がきんきんひびいていました。」からは、風景の様子が読み取れるだけではない。この情景描写(情景とは、心情が表れている風景)からは、2、3日じっとしていた穴から抜け出した「ごんのすっきりした気持ち」も読み取れる。

○**中心人物の変化**をとらえて読む…物語文指導のキーは、中心人物の変化である。低学年では、中心人物の気持ちが変わることを教える。中学年では、「はじめ→きっかけ→終わり」を考えながら、中心人物の変化をとらえることを教える。

高学年では、中心人物の変化をもとに主題をとらえることができるようにする。

「ごんぎつね」では、「〈はじめ〉ひとりぼっちの寂しさからいたずらばかりしていたごんが、〈きっかけ〉兵十が自分と同じひとりぼっちになったのを知ったことで、〈終わり〉兵十への償いを繰り返すがなかなか思いが通じず、ついには兵十に撃たれ、死を前にしてやっと心が通い合った話。」ということになるだろうか。



○**主題**をとらえて読む…主題とは、作者が作品を通して一番伝えたいことである。それは作品には明示されていないので、中心人物の変化をとらえた上で考えることが有効である。

「ごんぎつね」では、分かり合うことの難しさとそれ故の喜びと悲しみということになるだろう。南吉がこの作品を書いたのは、18歳の時である。鈴木三重吉の手がどの程度入ったのかは不明だが、わずか18歳で人生の深淵を見つめられる才には驚くしかない。

※その他のステップは、説明文の項を参照のこと。

## 説明文の読みに関する学習用語の系統(2013)

	①要点・要約	②問いと答え	③表現技法	④三段構成	⑤要旨や意図
1年	○文 ○段落	○問い ○答え	○問いの文 ○答えの文	○事例 ○事例の順序 ○事例の対比 ○事例の類比	○説明文 ○筆者 ○問いと答えの意図 ○事例の順序の意図
2年	○主語 ○述語 ○修飾語	○詳しい答え ○まとめの答え	○理由の文 (のです、からです) ○接続語 (順序、例、まとめ)	○三段構成 (はじめ・中・おわり)	○三段構成の意図
3年	○中心文 ○要点 ○小見出し ○要約(縮約) ○要約文	○大きな問い ○小さな問い ○かかれた問い	○事実の文 ○意見の文 ○指示語 ○接続語 ○文末表現	○事例とまとめ ○話題提示 ○実験と証明 ○具体と抽象 ○文章構成図	○事例とまとめの 整合性 ○説明の工夫
4年	○要約(自分の言葉)		○呼びかけ ○定義づけ ○図や写真 ○長所・短所 ○年号	○文章構成 (尾括・双括・頭括) ○まとめと主張 ○仮説と検証 ○略述と詳述	○図や写真の意図 ○話題の選択 ○事例の選択
5年			○表やグラフの効果 ○数値の効果 ○たとえ	○まとめから 事例を読む	○論説文 ○要旨 ○表やグラフ、 数値を使う意図
6年				○三段構成の変形	○目的や必要に 応じた説明の工夫

桂聖編著『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』

## 文学の読みに関する学習用語の系統(2013)

	①作品の設定	②視点	③表現技法	④中心人物の変化	⑤主題
1年	○時 ○場所 ○登場人物 ○事件(出来事) ○場面	○語り手 ○地の文	○会話文(言ったこと) ○地の文 ○行動描写(したこと) ○繰り返し(リフレイン) ○気持ちの言葉 ○音みない言葉 ○音の数 ○リズム	○中心人物 ○気持ち ○様子 ○気持ちの変化への 気づき	○物語 ○題名 ○作者 ○好きなところ ○似ているところ ○自分の経験
2年	○あらすじ ○人物像		○人物の言動 ○比喩 ○体言止め ○短文	○気持ちの変化の理解 ○物語の意味の変化	○感想
3年	○起承転結設定・ 展開・山場・結末) ○ファンタジー ○読者	○立場による 見え方の違い	○心内語 ○情景描写 ○擬態語・擬声語 ○擬人法	○はじめ・きっかけ・ おわり ○内面だけの变化	○自分の行動や 考え方に重ねて 読む
4年	○時代背景 ○場面の対比	○視点 ○視点の転換	○色彩語 ○五感の表現 ○記号(ダッシュ、 リーダー)	○心情 ○行動と心情が 相反する変化 ○登場人物の関係の 変化 ○きっかけの役割	○読後感 ○象徴
5年	○登場人物の関係 ○額縁構造	○視点がわかる表現	○心情を表す表現の 整理 ○物語的表現・ 説明的表現 ○呼称表現 ○方言・共通語 ○受け身表現	○登場人物の関係の 変化 ○見方・考え方の変化	○中心人物の変化 から主題をとらえる
6年		○一人称視点 ○三人称視点			○複数の観点(中心人 物の変化、題名、キ ーセンテンス、結末) から主題をとらえる

桂聖編著『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』

## 国語教材のUD化をめざす「教材のしかけづくり」

教材にしかけをつくるというのは、「教材の安定を崩す」ということです。水の入ったコップが机の真ん中にある(安定していれば)、特に何も感じません。しかし、コップの底が机からはみ出すほど端に置かれていたら(安定が崩れたら)、つい声が出るものです。安定していた教材を意図的に不安定な状態にすることで、自ら教材に働きかける能動的な子どもの姿を引き出そうというわけです。

教材にしかけをつくることで、指導の目的が達成されなければなりません。そのためには、教材のしかけづくりという指導方法を通して、どのように文章の内容を理解させたり、どんな論理的な読み方を指導したりしているのかを、常に明確にして指導することが大切です。

説明文の授業でも、文学の授業でも、前掲の学習用語の系統に基づき、5つの論理的な読み方や各学年における読みの学習用語を想定した上で、ねらいを「焦点化」します。そして、授業のねらいや子どものレディネスを踏まえて、次に示す「10の方法」を参考にしかけを具体化します。

実際の授業場面では、教材をどの順番で見せるのか(順序)、どんなタイミングで見せるのか(タイミング)、提示する時にどんな言葉がけをかけるのか(言葉がけ)を事前に考えておき、子どもの問いやつぶやきを増幅するようにします。

### 【方法①】 順序を変える

- 挿絵の順序を変える
- 文の順序を変える
- 語句の順序を変える
- 段落の順序を変える

### 【方法②】 選択肢をつくる

- 語句の選択肢をつくる
- 文の選択肢をつくる
- 段落の選択肢をつくる
- 場面の選択肢をつくる
- 挿絵の選択肢をつくる
- 写真の選択肢をつくる
- 題名の選択肢をつくる

### 【方法③】 置き換える

○語句を置き換える

#### **【方法④】 隠す**

- 挿絵を隠す
- 記号を隠す
- 題名を隠す
- 作者名を隠す
- 語句を隠す
- 文を隠す

#### **【方法⑤】 加える**

- 人物を加える
- 挿絵を加える
- 語句を加える

#### **【方法⑥】 限定する**

- 挿絵を限定する
- 文を限定する
- 語句を限定する

#### **【方法⑦】 分類する**

- 文を分類する
- 挿絵を分類する
- 語句を分類する

#### **【方法⑧】 図解する**

- 中心人物の変化を図解する
- 因果関係を図解する
- 心情グラフを図解する
- 人物関係を図解する

#### **【方法⑨】 配置する**

- 挿絵を配置する
- 挿絵・文を配置する
- 文を配置する

## 【方法⑩】 仮定する

- 文を仮定する
- 人物を仮定する
- グラフを仮定する

桂聖編著『教材に「しかけ」をつくる国語授業10の方法』

本項「明日の授業を作る」の記述は、いずれも未消化状態です。私自身が今チャレンジしようとしている課題そのものです。私にもう少し残り時間があればUD研のような会を組織したいのですが、まあ夢は夢として、いつか実践交流の機会が持てればなあと考えています。